

## 受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。さて、「リスク抑制型・4資産バランスファンド（愛称 にいがた創業応援団）」は、このたび、第2期の決算を行いました。

当ファンドは、日本連続増配成長株マザーファンド、米国成長株クオンツマザーファンド、日系外債マザーファンドⅡおよびJリート・マザーファンドを通じて、日本の株式、米国の株式、海外の債券および日本の不動産投資信託証券に投資し、海外の債券には原則として為替ヘッジを行い、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 第2期末(2020年10月26日)

基準価額	9,342円
純資産総額	2,866百万円
第2期	
騰落率	8.1%
分配金(税引前)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

# リスク抑制型・ 4資産バランスファンド (愛称 にいがた創業応援団)

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2020年4月25日～2020年10月26日

## 交付運用報告書

### 第2期(決算日2020年10月26日)

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ  
フリーダイヤル ☎0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

(2020年4月25日～2020年10月26日)



期 首：8,639円

期 末：9,342円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率： 8.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2020年4月24日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

### (主なプラス要因)

#### ○日本連続増配成長株マザーファンド

- ・業種配分では、サービス業、小売業、情報・通信業などがプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、日本M&Aセンター、エムスリー、ゴールドウインなどがプラスに寄与しました。

#### ○米国成長株クオンツマザーファンド

- ・業種配分では、情報技術、一般消費財・サービス、資本財・サービスなどがプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、TESLA INC、DOCUSIGN INC、ZOOM VIDEO COMMUNICATIONS-Aなどがプラスに寄与しました。

#### ○日系外債マザーファンドⅡ

- ・保有債券からの利息収入がプラスに寄与しました。
- ・保有債券の利回り低下による価格上昇がプラスに寄与しました。
- ・ユーロやイギリスポンドの対円での上昇がプラスに寄与しました。

#### ○Jリート・マザーファンド

- ・日本プロロジスリート投資法人、日本リテールファンド投資法人、GLP投資法人などがプラスに寄与しました。

### (主なマイナス要因)

#### ○日本連続増配成長株マザーファンド

- ・業種配分では、陸運業、医薬品、食料品などがマイナスに影響しました。
- ・個別銘柄では、アステラス製薬、西日本旅客鉄道、花王などがマイナスに影響しました。

#### ○米国成長株クオンツマザーファンド

- ・業種配分では、マイナスに影響したものは特にありませんでした。
- ・個別銘柄では、SAREPTA THERAPEUTICS INC、FORTINET INC、EDWARDS LIFESCIENCES CORPなどがマイナスに影響しました。
- ・米ドルの対円での下落がマイナスに影響しました。

#### ○日系外債マザーファンドⅡ

- ・米ドルの対円での下落がマイナスに影響しました。

#### ○Jリート・マザーファンド

- ・日本ビルファンド投資法人、ジャパンリアルエステイト投資法人、インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人などがマイナスに影響しました。

※当期においては投資対象とした米ドルが対円で下落した一方、ユーロおよびイギリスポンドが対円で上昇しましたが、「日系外債マザーファンドⅡ」では実質組入外貨建資産に対して為替ヘッジを行ったため、為替変動に伴う基準価額への影響は限定的となっています。なお、「米国成長株クオンツマザーファンド」は為替ヘッジを行っていません。

1万口当たりの費用明細

(2020年4月25日～2020年10月26日)

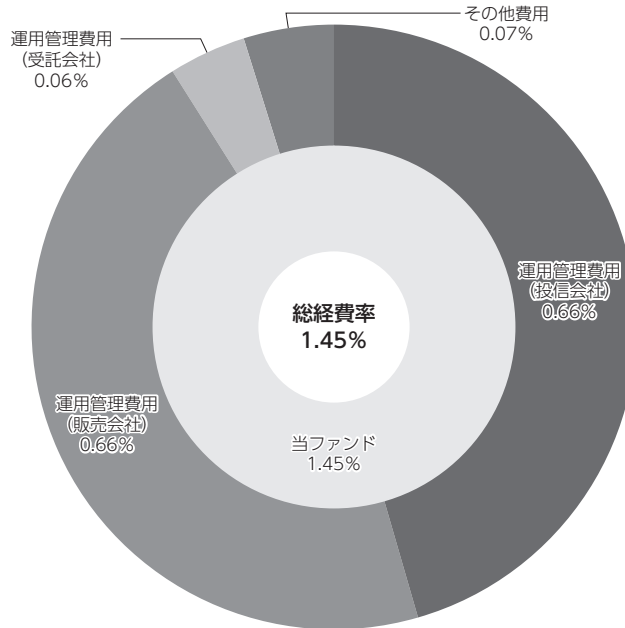
項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	64 (31) (31) ( 3 )	0.697 (0.335) (0.335) (0.028)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 ) ( 投 資 信 託 証 券 )	3 ( 2 ) ( 1 )	0.030 (0.024) (0.005)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税 ( 株 式 )	0 ( 0 )	0.000 (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( 監 査 費 用 ) ( そ の 他 )	3 ( 2 ) ( 1 ) ( 0 )	0.034 (0.027) (0.007) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金融商品取引を行う為の識別番号取得費用等
合 計	70	0.761	
期中の平均基準価額は、9,166円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。  
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.45%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年10月26日～2020年10月26日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日(2019年10月31日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2019年10月31日 設定日	2020年10月26日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,342
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.6
純資産総額 (百万円)	1,380	2,866

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年10月26日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドは、原則として月次で各資産の投資比率の見直しを行うため、当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないことから、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

**投資環境**

(2020年4月25日～2020年10月26日)

**(国内株式市場)**

国内株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大に対しての各国政府や中央銀行の政策対応が好感されたほか、日本においては政府の緊急事態宣言の発令や外出の自粛効果で、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向に転じたことにより、経済活動再開への期待が高まり、2020年6月上旬にかけて株式市場は戻りを試す展開となりました。その後も経済活動の正常化を先取りする形で堅調な値動きとなりました。

**(米国株式市場)**

米国株式市場は、政府による景気支援策や経済活動の再開、新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発に対する期待を背景に、2020年8月までは上昇基調が続きました。9月以降は、景気回復の遅れに対する懸念が高まる中で一時的に下落する局面がありましたが、追加経済対策案の合意に対する期待などが下支えとなり、期末にかけて堅調に推移しました。

**(海外債券市場)**

欧米主要国の債券市場は、期を通じて英国やドイツなどで利回りが低下（債券価格が上昇）しました。各国・地域の中央銀行による金融緩和を背景に、買いが優勢な展開となりました。ただ、米国については、2020年11月の大統領選挙や連邦議会選挙は民主党優勢との見方から、財政支出拡大を意識した売りが期末にかけて強まった影響もあり、長期ゾーンで利回りが上昇（債券価格が下落）する動きも見られました。

スプレッド（社債と国債の利回り格差）については、期を通じて縮小しました。主要国の堅調な株価動向等を背景に、投資家の利回り選好が強まる展開となりました。また、各国当局による企業の資金繰り支援策も、市場の信用不安を後退させて、スプレッドの縮小を促しました。

**(Jリート市場)**

Jリート市場は、経済活動再開の期待や金融・財政政策を受けて国内外のリスク資産が上昇したことなどから2020年6月上旬にかけて上昇しました。しかし、新型コロナウイルスの感染再拡大などが上値を抑え、7月末にかけて下落しました。8月に入ると景気回復期待の高まりから上昇し、その後は10月中旬にかけてはもみ合う動きとなりました。ただ、期末にかけては、米国大統領選挙を控えてリスクを減らす動きや、欧米を中心に新型コロナウイルスの感染が再び拡大していることなどが嫌気され、下落しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2020年4月25日～2020年10月26日)

## ＜リスク抑制型・4資産バランスファンド(愛称 にいがた創業応援団)＞

「日本連続増配成長株マザーファンド」、「米国成長株クオンツマザーファンド」、「日系外債マザーファンドⅡ」、「Jリート・マザーファンド」の各受益証券を主要投資対象とし、各資産の実質合計組入比率を高位に保ちました。「日系外債マザーファンドⅡ」の実質組入外貨建資産については、為替ヘッジを行いました。また、月次で投資比率の見直しを行い、ポートフォリオのリスクに関して、年率7%を目途とする管理を行いました。

投資比率を決める基となる市場リスクは、各資産の過去1年間の日々の価格変動性に基づいて推計しております。従来は過去1年間のどの日の価格変動性も均等に扱う形で計算していましたが、2020年10月に入り、現在に近い日付のデータに重みを付けて計算する方法に変更することとしました。

## ○日本連続増配成長株マザーファンド

連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築しました。当期は、国内における新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化に伴う経済活動の再開で業績改善が期待できると考えたパーソルホールディングスや第一興商などを新規に組み入れました。一方で、物流施設への投資などによる負担増で減配見通しを示したアズワンなどを全株売却しました。

## ○米国成長株クオンツマザーファンド

運用方針に則り、米国の大型・中型株式の中から、定量基準によって成長性が優れると判断される銘柄への投資を行いました。資金流出入に応じて等金額投資を目標に各銘柄の売買を行い、株式組入比率を高位に推移させました。組入外貨建資産については、運用の基本方針に則り、為替ヘッジを行いませんでした。

## ○日系外債マザーファンドⅡ

日本の企業およびその子会社等が発行する外貨建債券に投資を行い、同債券の組入比率は概ね高位を保ちました。銘柄の選定にあたっては、流動性、信用リスクに留意しつつ、利回り、業績、財務面等での魅力が高いと判断される債券に着目しました。また、当期においては、ポートフォリオの利回り水準を高め維持し、利息収入の確保に努めました。

## ○Jリート・マザーファンド

高位の組入比率を概ね維持しました。セクターにつきましては、当初はバリュエーション面で割高と判断した住宅特化型や物流・インフラ施設特化型リートの一部を売却し、オフィス特化型や商業特化型リートを買い増しました。その後、商業特化型リートのバリュエーション調整が進んだと判断して一部を売却し、底堅い業績と比較して割安と思われる複合型・総合型リートの買い増しを行いました。当期末にかけては、バリュエーション面での割高さが解消されたと判断した住宅特化型リートを買い増しました。当期末時点では、物流・インフラ施設特化型リートを東証の時価総額の構成比に対してアンダーウェイトとする一方、複合型・総合型やオフィス特化型リートをオーバーウェイトとしています。



## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年4月25日～2020年10月26日)

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載していません。

## 分配金

(2020年4月25日～2020年10月26日)

当ファンドは、毎年4月24日および10月24日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益として、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して分配金額を決定します。

当期の分配につきましては、見送りとさせていただきます。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項 目	第2期
	2020年4月25日～ 2020年10月26日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	233

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### <リスク抑制型・4資産バランスファンド(愛称 いがた創業応援団)>

「日本連続増配成長株マザーファンド」、「米国成長株クオンツマザーファンド」、「日系外債マザーファンドⅡ」、「Jリート・マザーファンド」の各受益証券を引き続き組み入れ、実質合計組入比率を高位に維持する方針です。また、毎月月央に投資比率の調整を行い、ポートフォリオのリスク水準を管理することにより、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用する方針です。

#### ○日本連続増配成長株マザーファンド

国内株式市場は、方向感に乏しい展開を予想します。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大幅な景況感の悪化には底打ち感がみられるものの、既に株価は先行して回復を織り込んだ水準にあると思われる。また、国内外において新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通しづらい状況にあることや、米国の政治の先行き不透明感も相場の重しになると考えます。

当ファンドの運用につきましては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮してユニバースを構築し、その中から、成長性や連続増配の持続可能性等を勘案しポートフォリオを構築します。個別銘柄については、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に広がると見られる新しい生活様式などに着目した銘柄選別を行っていく方針です。

#### ○米国成長株クオンツマザーファンド

米国株式市場は、一進一退の展開が続くと予想されます。世界的な低金利環境の中、追加経済対策および新型コロナウイルスの感染症治療薬やワクチンの開発に対する期待が株価の上昇要因になると見込まれます。一方で、雇用の回復ペースの鈍化をはじめ、米国経済の先行きに懸念が残ることや、南シナ海の軍事拠点や台湾、および半導体の輸出制限を巡る米中関係の先行き不透明感が株価の上値を抑える要因になると見込まれます。

当ファンドの運用につきましては、運用方針に則り、米国の大型・中型株式の中から、定量基準によって成長性が優れると判断される銘柄への投資を行います。資金流入に応じて等金額投資を目標に各銘柄の売買を行い、株式組入比率を高位に推移させます。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

#### ○日系外債マザーファンドⅡ

欧米主要国の債券市場は、利回りが低位で推移すると予想します。世界経済がコロナ禍を経験して構造変化を起こす中、各国・地域の中央銀行は景気の先行きを慎重に判断すると考えられるため、金融緩和が長期化し、利回りの抑制が継続すると見込んでいます。

スプレッドについては、縮小傾向となることを予想します。低金利環境が一段と長期化する見通しの中で、投資家の利回り選好が続くと見込んでいます。また、各国当局の政策対応等を受けて、今後も企業の資金繰りが安定すると考えられることも、スプレッドの縮小を促すと見ています。

当ファンドの運用につきましては、このような状況下、日本の企業およびその子会社等が発行する外貨建債券の中で、流動性、信用リスクに留意しつつ、利回り、業績、財務面等での魅力が高いと判断される債券に投資を行う方針です。また、ポートフォリオの利回り水準を高め維持し、利息収入の確保に努める考えです。

### ○Jリート・マザーファンド

Jリート市場は、短期的には新型コロナウイルスの影響で上下する場面があると見ています。しかし、バリュエーション面で長期平均と比べて割安と考えられることや、低金利環境が継続すると見られる中でリートの相対的な利回りの高さが下支えとなり、中長期的には底堅く推移すると予想します。

当ファンドの運用につきましては、株式会社三井住友トラスト基礎研究所から提供される不動産市場全体とJリートに関する調査・分析情報等の助言を参考に個別銘柄の資産内容や信用力、バリュエーションなどを勘案し、個別銘柄の選定やウェイト付けを行います。

当面は、投資口価格の割安感が強いと考えられる銘柄や、物件取得などを通じて成長が期待できる銘柄などを東証の時価総額の構成比に対してオーバーウェイトとする方針です。一方、投資口価格の割安感が乏しいと考えられる銘柄などは、アンダーウェイトとする方針です。

## お知らせ

委託会社と販売会社は、ファンドの信託報酬の一部からファンドの日々の純資産総額に対し年率0.20%を乗じて得た額を新潟県での起業・創業支援活動のために寄附を行います。

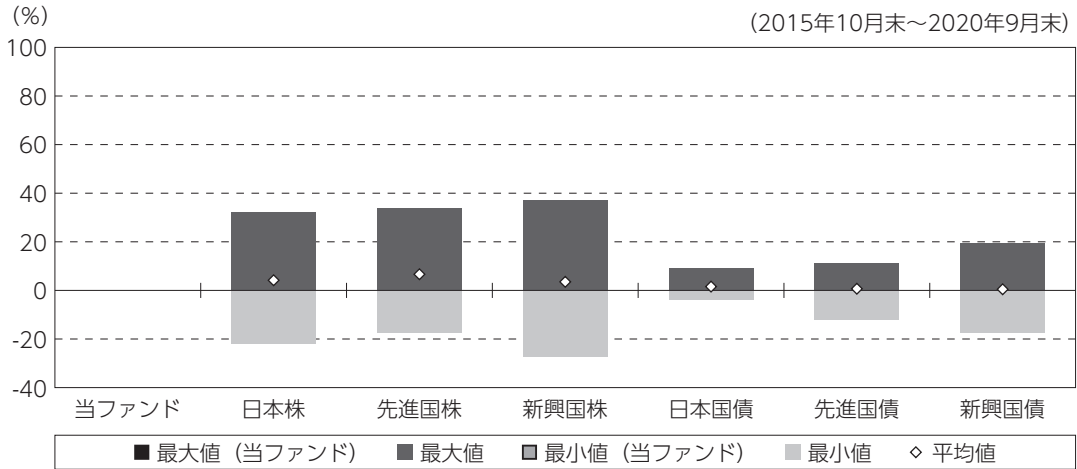
寄附に関しては2021年1月頃の実施を予定しております。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2019年10月31日から2029年10月24日までです。	
運用方針	<p>日本連続増配成長株マザーファンド、米国成長株クオンツマザーファンド、日系外債マザーファンドⅡおよびJリート・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本の株式、米国の株式、海外の債券（以下、日系外債といいます。）および日本の不動産投資信託証券（以下、J-REITといいます。）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。</p> <p>原則として月次で各資産の投資比率の見直しを行い、ポートフォリオのリスク（ボラティリティ）に関して、年率7%を目途とする管理を行います。見直し時における日本の株式、米国の株式、J-REITの3資産の投資比率は等比率とすることを基本とします。市場環境により目途とするリスク水準を下回ることが見込まれる場合には、日系外債を含めた4資産を見直し時において等比率とし、当該水準を上回ることが見込まれる場合には、日本の株式、米国の株式、J-REITの3資産の投資比率を引き下げ、日系外債の投資比率を引き上げます。実質組入外貨建資産について、日系外債には原則として為替ヘッジを行い、米国の株式には原則として為替ヘッジを行いません。</p>	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	日本連続増配成長株マザーファンド	日本の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
	米国成長株クオンツマザーファンド	米国の取引所上場株式（これに準ずるものを含みます。）を主要投資対象とします。
	日系外債マザーファンドⅡ	取得時において投資適格の信用格付を取得している外貨建債券を主要投資対象とします。
	Jリート・マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）J-REITを主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
	日本連続増配成長株マザーファンド	投資候補銘柄の選定にあたっては、連続増配期間の長さ、時価総額、信用リスク、流動性等を考慮して行います。ポートフォリオの構築にあたっては、成長性、バリュエーション等のほか、今後の連続増配の持続可能性を勘案して行います。
	米国成長株クオンツマザーファンド	銘柄の選定にあたっては、米国の主に大型・中型の株式の中から、定量基準に則り、業績動向等による企業の成長性を重視して行います。ポートフォリオの構築にあたっては、各銘柄を原則として等金額に組入れ、銘柄の見直しおよび組入比率の調整は、原則として月次で行います。
	日系外債マザーファンドⅡ	銘柄の選定にあたっては、流動性、信用リスクに留意しつつ、利回り、業績、財務面等の魅力が高いと判断される債券に着目します。
	Jリート・マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）J-REITに投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。運用にあたっては、株式会社三井住友トラスト基礎研究所から不動産市場全体とJ-REITにかかる調査・分析情報等の助言を受けます。
分配方針	<p>毎年4月24日および10月24日（それぞれ休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。</p> <p>分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。</p> <p>分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。</p>	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	-	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	-	4.2	6.6	3.5	1.6	0.7	0.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年10月から2020年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2020年10月26日現在)

#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末 %
日系外債マザーファンドⅡ	56.0
米国成長株クオンツマザーファンド	14.1
Jリート・マザーファンド	13.9
日本連続増配成長株マザーファンド	13.8
組入銘柄数	4銘柄

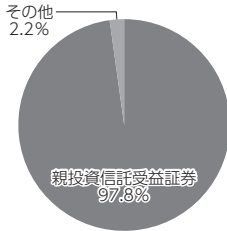
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

#### ○外国為替予約取引の状況

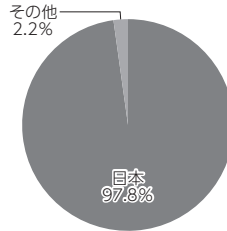
通貨		比率
買い	売り	
日本円	米ドル	48.2%
日本円	ユーロ	4.8%
日本円	イギリスポンド	0.8%

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する予約外貨評価額の割合です。

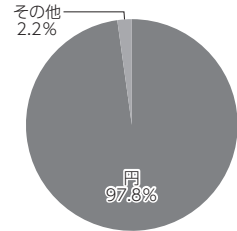
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

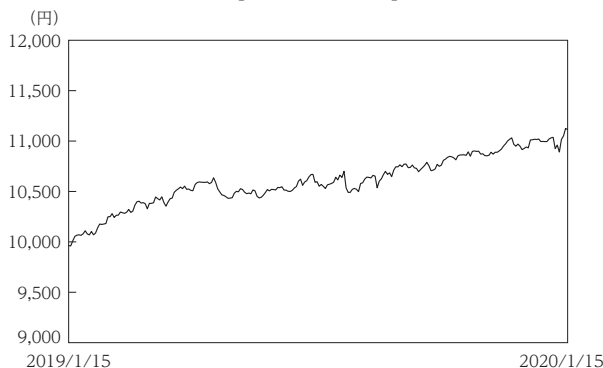
項目	第2期末
	2020年10月26日
純資産総額	2,866,777,330円
受益権総口数	3,068,666,115口
1万口当たり基準価額	9,342円

(注) 期中における追加設定元本額は49,903,302円、同解約元本額は48,961,491円です。

## 組入上位ファンドの概要

### 日系外債マザーファンドⅡ

#### 【基準価額の推移】



#### 【1万口当たりの費用明細】

(2019年1月16日～2020年1月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用	3	0.032
( 保 管 費 用 )	(3)	(0.031)
( そ の 他 )	(0)	(0.001)
合 計	3	0.032

期中の平均基準価額は、10,629円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

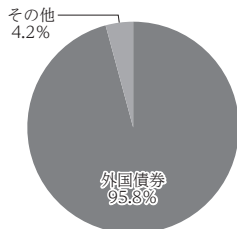
#### 【組入上位10銘柄】

(2020年1月15日現在)

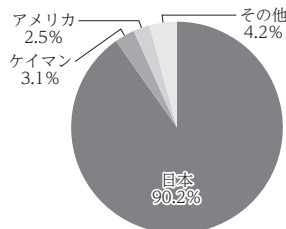
銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
1 MEIJI YASUDA LIF 5.2	普通社債券	米ドル	日本	8.2
2 SUMITOMO LIFE 6.5	普通社債券	米ドル	日本	7.6
3 FUKOKU MUTUAL 6.5	普通社債券	米ドル	日本	7.6
4 SOMPO JAPAN INS 5.325	普通社債券	米ドル	日本	7.4
5 MITSUI SUMITOMO 7	普通社債券	米ドル	日本	7.2
6 DAI-ICHI LIFE 7.25	普通社債券	米ドル	日本	6.1
7 ASAHI MUTUAL LIF 7.25	普通社債券	米ドル	日本	5.8
8 SUMITOMO MITSUI 3.202	普通社債券	米ドル	日本	5.0
9 MUPG BANK LTD 4.7	普通社債券	米ドル	日本	4.9
10 CENT JAPAN RAIL 4.25	普通社債券	米ドル	日本	4.7
組入銘柄数	24銘柄			

- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

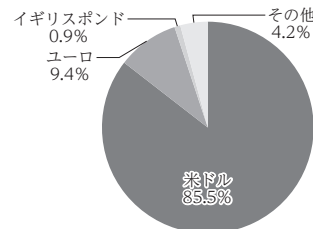
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】

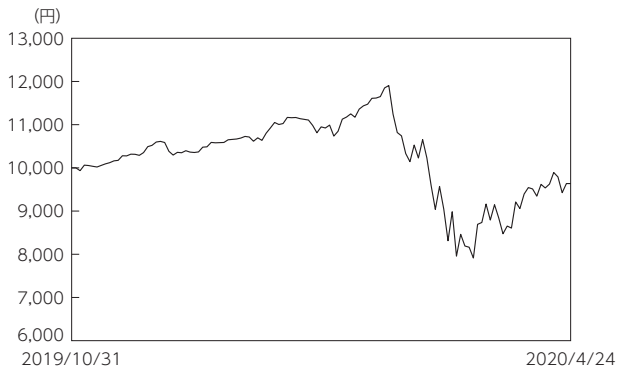


- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

米国成長株クオンツマザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年10月31日～2020年4月24日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式)	22 (22)	0.218 (0.218)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	0 (0)	0.003 (0.003)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	13 (13) (0)	0.124 (0.122) (0.002)
合計	35	0.345

期中の平均基準価額は、10,299円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

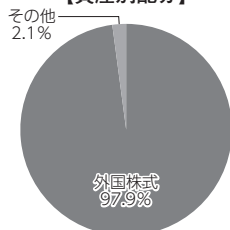
【組入上位10銘柄】

(2020年4月24日現在)

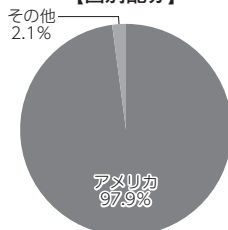
順位	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	DEXCOM INC	ヘルスケア機器・サービス	米ドル	アメリカ	2.8%
2	FASTENAL CO	資本財	米ドル	アメリカ	2.8%
3	INSULET CORP	ヘルスケア機器・サービス	米ドル	アメリカ	2.7%
4	OKTA INC	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	2.7%
5	RINGCENTRAL INC-CLASS A	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	2.6%
6	MARKETAXESS HOLDINGS INC	各種金融	米ドル	アメリカ	2.6%
7	O'REILLY AUTOMOTIVE INC	小売	米ドル	アメリカ	2.6%
8	JACOBS ENGINEERING GROUP INC	資本財	米ドル	アメリカ	2.6%
9	DOCUSIGN INC	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	2.5%
10	EDWARDS LIFESCIENCES CORP	ヘルスケア機器・サービス	米ドル	アメリカ	2.5%
組入銘柄数			40銘柄		

- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

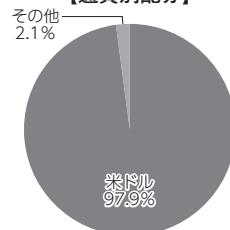
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



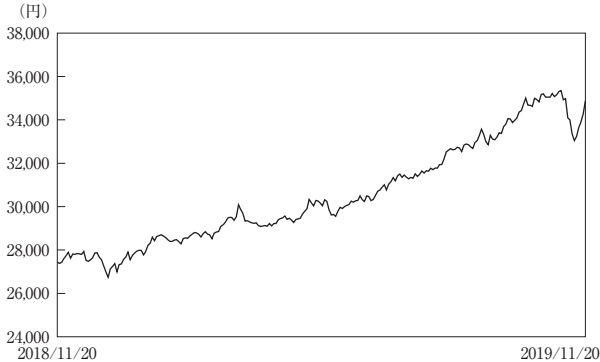
- (注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。



Jリート・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2018年11月21日～2019年11月20日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	76 (76)	0.249 (0.249)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	76	0.249

期中の平均基準価額は、30,460円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

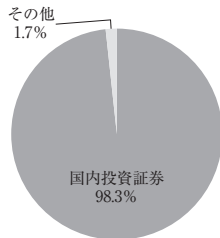
【組入上位10銘柄】

(2019年11月20日現在)

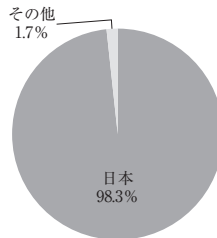
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
				%
1 ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	6.5
2 野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	5.9
3 日本ビルファンド投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	5.9
4 オリックス不動産投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	4.0
5 日本リテールファンド投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	4.0
6 ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	4.0
7 大和ハウスリート投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	3.9
8 ジャパン・ホテル・リート投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	3.1
9 ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	3.0
10 大和証券オフィス投資法人 投資証券	投資証券	円	日本	2.9
組入銘柄数			55銘柄	

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

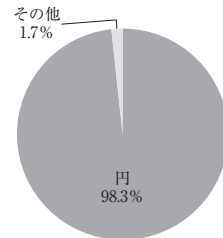
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

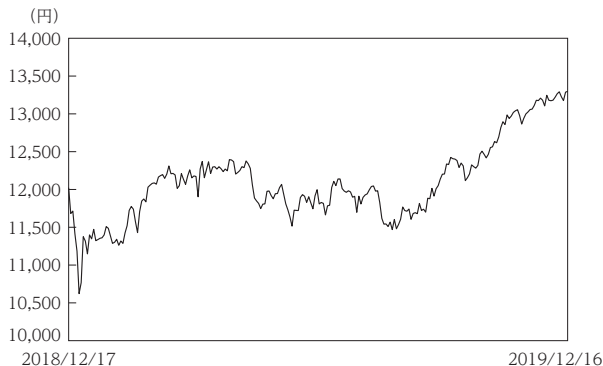


(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。  
 (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

日本連続増配成長株マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2018年12月18日～2019年12月16日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	21 (21)	0.175 (0.175)
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	21	0.175

期中の平均基準価額は、12,091円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2019年12月16日現在)

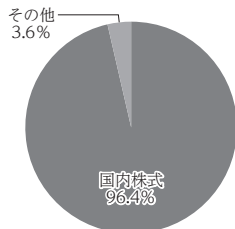
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
1	パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	小売業	円	日本	3.1%
2	花王	化学	円	日本	3.1%
3	日本M&Aセンター	サービス業	円	日本	3.0%
4	KDDI	情報・通信業	円	日本	3.0%
5	アズワン	卸売業	円	日本	2.6%
6	テルモ	精密機器	円	日本	2.5%
7	西日本旅客鉄道	陸運業	円	日本	2.4%
8	ショーボンドホールディングス	建設業	円	日本	2.4%
9	エムスリー	サービス業	円	日本	2.4%
10	ロート製薬	医薬品	円	日本	2.4%
	組入銘柄数		75銘柄		

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

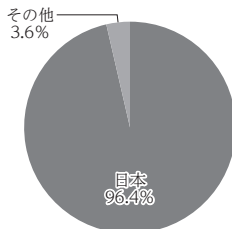
(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

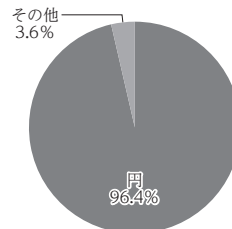
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

### <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### ○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

#### ○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。